

オンシディウムの育て方(1)

栽培管理

置き場所

5月頃、夜間の最低気温が10℃以上になれば、屋外の風通しの良い場所を選び、雨水のはねかえりのない棚上に置くか、木陰などに吊り下げます。葉焼けを防ぐために、春と秋は30～40%、夏は50～60%の遮光を行います。

10月頃、夜温が13～15℃以下になれば、温室や室内に入れます。冬の間はガラス越しの日がよく当たる場所に置き、できれば10～13℃以上、最低でも8℃以上で管理します。

水やり

植え込み材料の表面が乾いたら、鉢底から流れ出るまでたっぷり水を与えます。オンシディウムの場合、他の洋ランに比べて小さい鉢に植えるので、夏は特に乾燥に注意します。冬に適温（約10℃）が保てない場合は、水やりを控え、植え込み材料の表面が乾いてからさらに2～3日経ってから水を与えます。

肥料

5月～10月までは液肥を月に2～3回、それ以外の時期は規定の2倍に薄めた液肥を月に2～3回与えます。冬は与えません。

支柱立て

オンシディウムの多くの種は花茎が長く伸びます。花茎の枝分かれした先が明らかに広がりはじめた頃に支柱を立て、倒れるのを防ぐと良いでしょう。

病害虫の防除

葉の周縁や基部にカイガラムシがつきやすく、見つけ次第、手や綿棒でこすり落とすか殺虫剤を散布します。また、つぼみにアブラムシがつきやすいのでオルトランやスミチオンなどの殺虫剤を散布します。通気の悪い状態で管理すると夏に軟腐病が出やすくなるので、銅水和剤で予防します。

オンシディウムの年間管理表

管理	月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
置き場所		戸 外						室 内 最低8℃(できれば10～13℃以上)					
日当たり (遮光率)		30～40%		50～60%				室内の光の当たるところ					
水 や り		乾いたらたっぷり						少なめ					
肥 料		液肥を月に2～3回						薄めの液肥を月に2～3回 または与えない					
作 業		植え替え(秋・冬咲き)		植え替え(春・夏咲き)				植え替え(秋・冬咲き)					



オンシディウムの育て方(2)

オンシディウムの種類

	主な野性種	主な交配種	特徴
薄葉系	ワレリコスム, オブリザツム, ケイロフォルム	アロハ・イワナガ, リトルエンジェル, トウインクル	花茎が長く伸びる。花色は黄色系が多い。大きなバルブを持つ。比較的栽培が容易。
剣状葉系	プルケルム, バハメンセ	ブギー, カリブ・ポー	小型種が多い。白、赤系の花色を持つ種がある。バルブは一般に小さい。
厚葉系	スプレندیダム, パビリオ	ポポキ, カリヒ	葉や花の形状が変化に富む。夏に暑がる種がある。

植え替え

植え込み材料

水苔や、洋ランの植え込み材料として市販されている細切りのバーク（樹皮）が適します。

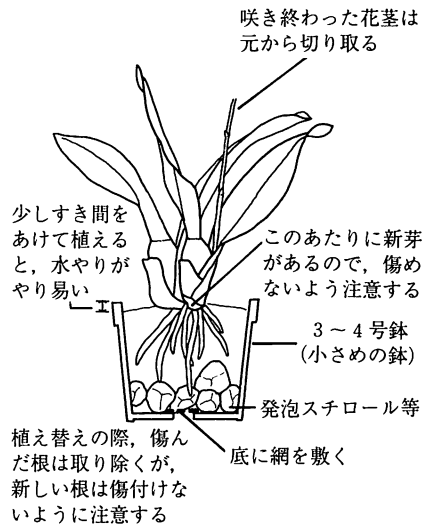
植え替え時期と方法

新しいバルブが植え込み材料から浮き上がったり、根が鉢からはみ出したものや、生育が良くないものは、花が咲き終わったら植え替えます。ただし、真夏や真冬は避け、春または秋に行います。

また、贈り物として入手した鉢は、数株寄せ植えにしていることが多く、そのままでは管理が難しいので、花後できるだけ早く1株ずつに植え分けます。

植え替え後の管理

植え替え後は、半日陰の風当たりの弱い場所に置きます。新しい根が伸び始めるまで、植え込み材料は乾かし気味にし、葉水を多く与えて空中湿度を保ちます。



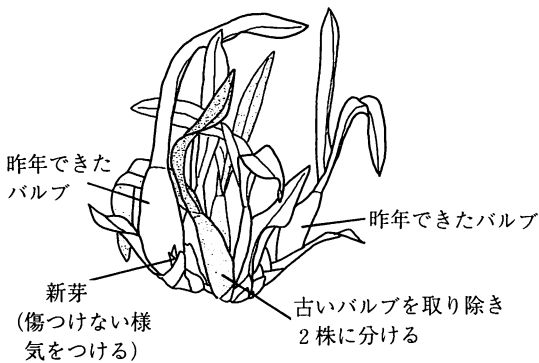
少しすき間をあけて植えると、水やりがやり易い

植え替えの方法

繁殖

1株で同時に2方向以上に生長している株は、植え替え時に株分けできます。新芽にバックバルブを2個以上付けて切り分けます。この時、新しい根を傷めないように気を付けましょう。

また、残ったバックバルブで小さな芽があるものは、水苔で小さな鉢に固く植え、乾かし気味に管理すれば、芽が伸びてくることがあります。



株分けの方法